

築して幼稚園3歳児保育教室として利用するため、各種行事の開催に支障を来す事態が想定される。改築より増築する考えはないか。

答 清音幼稚園は幼保一元化の先駆け施設で、市のセールスポイントでもある。清音地区は園児数の増加傾向が見られるので、増築は積極的に行っていくたい。

問 今以上にクラスが増えれば、現状の施設では対応が困難になり、増築が必要となる。園児数の推移を見極めながら、適切な幼児園運営ができるよう努力していきたい。

医療施設（休日・夜間急患センター）の今後の考えについて

問 市民は休日・夜間急患センターの早期実現を望んでいる。今後の展開と進捗状況を伺いたい。

答 市民の医療不安は、危急の場合の俊敏な第3次救急搬送体制、子ども

などの夜間診療体制、無医地区の医療体制の3点とされている。多様化する医療ニーズに答えるため、吉備医師会等と協議する中で具体的な方策を積み上げていくことが大切である。

《名木田 正昭》市長の政治姿勢について

問 ①議決された新総社大橋架橋事業を、どう見直すというのか。

②夜間診療体制の充実を掲げているが、無医地区の医療対策も含め、その後どう取り組んでいるのか。

③地域密着主義を掲げる中で、西部地区の自立のため、ウエルサンピアの存続と活用、正木山への林道や遊歩道の整備、山頂の開発、久代分館の移転新築計画をどう考えているか。

答 ①議会で議決された事業の重みもある一方、費用対効果を疑問視する声もある。



移転新築が検討されている西公民館久代分館

特に夜間診療体制の整備は至上命題で、診療場所の固定か各医療施設での輪番制か、医療装備の負担区分等、今吉備医師会と話し合っている。体制化に向け、全力で取り組みたい。

各議員や市民の所見も伝え、た上で、多くの議員や審議会委員にこの橋のあり方を議論、検討していただきたい。最終的には国土交通省への予算陳情期限である10月を目途に結論を出したい。

③ウエルサンピアを市が買い取ることは不可能。市がどういう手伝いができるか検討していきたい。正木山への林道整備構想も高梁川下流域森林計画に載せる必要があるが、山頂付近の整備及び遊歩道については、全面的な受益者負担の協力があれば検討していきたい。

久代分館の移転新築は、西公民館と同一敷地も検討しながら、平成22年度以降、実施計画に盛り込み実現を図っていきたい。

《村木 理英》子育て王国総社の実現について

問 ①市外出身の若い夫婦が結構いるが、子どもが病気で簡単に仕事を休めない。そのような人たち

のために病児保育、病後児保育などの環境整備をどのように行っていくのか。

答 ①病後児保育を市内の医療機関にお願いしているが、病児保育については解決策を持っていない。病後児保育に加えて検討していきたい。

②現状をよく精査した上で、前向きに取り組んでいきたい。

土木担当員制度について

問 ①本市は、独自の制度である土木担当員制度により土木行政を行っているが、実施率が低いことから、土木担当員が地元でやり玉にあげられている。市長のいう透明性、公平性、平等性の観点からも、工事未実施箇所の理由、他地区の状況などを土木担当員に

説明すべきと考えるがどうか。

②採点方式など透明性のある評価制度により実施すべきと考えるがどうか。

答 ①土木担当員の要望を受け、各担当課で現地調査を行い、必要性や緊急性などを考慮し総合的に判断しているが、今後は、土

《根馬 和子》幼児教育の充実について

問 ①保育所の待機児童が多いが、対策をどのように考えているか。また、入所審査はどのように行っているか。

②幼保一体化の取り組みは、待機児童の解消ばかりでなく、小学校入学への円滑な移行などにも効果があり、重要かつ喫緊の課題であると考えながら、取り組む考えはないか。

答 ①待機児童が60名いるが、このことを真摯に受け止め、待機児童ゼロに

木担当員と今まで以上に調整をとりながら、説明責任を誠実に果たしていきたい。また、他地区の状況については、事務事業の執行に支障をきたす恐れがあることから、今までどおり行っていくきたい。

②客観的評価基準の確立については検討していきたい。

向けて頑張るとともに、知恵を出していきたい。また、入所審査については、保育所入所選考基準要領により、親の勤務日数、勤務時間等を考慮して実施している。

②清音幼稚園を参考に、幼児教育研究委員会を立ち上げ、その中で検討していきたい。

ケーブルテレビの整備について

問 ①山手地区の多くの人は民間の放送システムに加入しており、市の回覧板チャンネルなどを見ることができない。このような特殊性をどう認識し、解決するのか。

②現在のケーブルテレビの設置基準は、40戸以上の集落で8割以上の設置希望ということだが、限界集落に近い地域や、大集落での8割は厳しいと思われる。設置基準の見直しや緩和はできないか。

答 ①山手地区は、民間の放送事業者、共聴施設組合、倉敷ケーブルテレビの3種類が混在するが、この中にコミュニティチャンネルを流し込む方法を検討するとともに、倉敷ケーブルテレビによる整備も視野に入れながら考えていきたい。

②現在の整備方針を見直す必要があると考えているので、前向きに検討していきたい。

《大熊 公平》学校給食について

問 ①学校給食法の改正により食育運動を進めるため、施設の整備を含め、中長期的な視点で給食のあり方を検討すべきと思うがどうか。



食育を推進する給食

②地域に根ざした学校給食推進事業の現状と課題は何か。

答 ①食育を推進するためには、給食施設の統合や建て替え、自校方式、民間委託などのあり方、食器の増加等を食育検討委員会で検討する中で、地産地消の推進、食の大切さ、栄養バランス、健全な食生活を実践する力を身につける教育など、適切に対応していきたい。

②学校給食推進事業は、栄養教諭の配置に伴い、文部科学省の研究指定のもとに学校と生産者の連携協力により学校給食に地場産物を積極的に取り入れ、食に関

する指導に実践的な調査研究をするものである。食材は総社米を100%活用し、地元産の野菜も活用してきたと思っている。ただ、現在は地場産物を給食に必要な量を継続的に確保することが困難であり、今以上に生産者やJA等と協力体制を整備し、給食に必要な食材が十分確保できるようにしたい。

行政の情報化について

問 市のホームページはリアルタイムの情報が見えない、見たいものが見えない不便さがある。日々組織的なチェックをし、情報伝達技術を向上すべきと思うが、今後どう取り組んでいくのか。

答 市民が今何の情報かを求めているかをよく考えて、携帯サイトや外国語のものなども検討する中で内容の濃いホームページにしていきたい。

このほか、地域農政について質問しています